

この夏、一番輝いた。

ふるさとの応援を背に全国でも実力発揮!



ミートの良さで長打力をあわせ持つ、4番バッターで捕手の福島孝輔くん(神崎)

夢舞台、初挑戦。

金田ジュニアが小学生の甲子園で殊勲のベスト8

赤い稲妻

軍団と呼ばれる金

田ジュニアが、高円宮杯全日本学童軟式野球大会で初出場ベスト8の快挙を達成。その機動力を生かした攻撃とバッテリーを中心とした硬い守備で、全国に名をとどろかせました。5年前、畠田英志監督(金田)の就任初戦で田川地区予選1回戦コールド負けを喫した金田ジュニアは、県大会出場を目標に練習を積み重ねてきました。昨年その悲願を達成し、今年はさらに県を制覇。夢は全国へと広がりました。「みなさんの応援に感謝でいっぱいです。全国制覇の目標を後輩たちに引き継いで欲しい」と近づいた夢を託した主将の浦田翼くん(金田)。1試合ごとに「やればできる」という信念を確信に近づけてきた自信が、選手たちの表情に表れていました。



予選から全試合をほぼ1人で投げきり、直球勝負で要所を抑えたエース、福田篤也くん(金田)

町長日記

▼久しぶりに明るい話題が届いた。8月9日から8月14日まで茨城県水戸市で開催された「高円宮賜杯第28回全日本学童軟式野球大会」に、福岡県代表として、金田ジュニアクラブが出場した。この大会は、小学生の甲子園とも言われていて、県下350チームを勝ち抜き、手にした晴れの舞台である。7月17日に、全国大会出場の報告に、選手たちが町長室を訪れたが、どの顔も自信に満ちた、すばらしい表情であった。かつての野球少年だった我が身にとって、少しばかり羨望の念を抱いた程である▼4年前のアテネオリンピック女子マラソンで金メダルを獲得した野口みずき選手が、練習は嘘をつかなかつた」と、その感想を述べている。まさに、指導者の熱い心情のもとに、厳しい練習に耐えた成果が、全国大会出場という輝かしい形となつて現れたものと思う▼折しも、8月2日からは、第90回全国高等学校野球選手権大会が始まつており、筑豊地区より28年ぶりに飯塚高校が出場していた(残念ながら初戦敗退となつたが)。真夏の炎天下に練り広げられる小学生や高校生の若いエネルギーのほとばしりは、再生を期す福智町、そして筑豊を勇気づけてくれた▼金田ジュニアクラブのスローガンは、「感謝と礼儀なくして、技術の向上なし」だそう。精神面の充実が重視された、いいクラブ訓だと思う。選手のみなさんには、是非、体得してほしいと願っている。ところで、気になる結果であるが、惜しくも準々決勝で敗れてしまった。しかし、ベスト8まで残ったのは、大きな勲章である。その頑張り、心から拍手を送りたい。そして、ありがとうと言いたい。

浦田 弘二